立志（りっし）

高砂市立高砂中学校・学校だより
令和8年3月2日（月）No.15

【学校教育目標】「志を持ち、その実現に努力し、だれもが安心できる学校づくり」

高砂市立高砂中学校長　橋本 尚人

第79回卒業証書授与式～大きな節目を迎える3年生～



3月10日（火）に第79回卒業証書授与式を行います。3年生にとっては、9年間の義務教育を修了する人生で大きな「節目」となる儀式です。2月下旬から少しずつ本番に向けて練習を重ねています。式歌「仰げば尊し」、「校歌」の歌練習を行っています。また、卒業式終了後に学年全体で合唱する曲EXILE の「道」（作詞:Shogo Kashida,作曲:miwa furuse）の練習も始まりました。今、力を入れているのが、卒業式の最も大切な「卒業証書授与」の部分です。卒業生が一人ひとりが壇上にあがって卒業証書を受け取ります。その際、担任の先生から名前を呼ばれます。3年生の皆さん、ぜひ、その呼名点呼に、ここまで育ててもらった家族や、ともに歩んできた友人、後輩たち、そして担任の先生に向けて「はい!」と万感の思いを込めて返事をしてください。たった“ひと声”ですが、この「は」と「い」の二音に気持ちを込めてほしいと思います。卒業式当日は、壇上で卒業生一人一人の返事をしっかりと聴こうと思います。

“『響き合う心』が紡いだ、かけがえのない志～

校長室にいると、廊下や教室から聞こえる「音」で、学校の空気が分かるものです。

3年前、まだ大きかった制服に身を包み、賑やかで少し頼りなげだった皆さんの足音。それが学年を重ねるごとに、力強く、落ち着いた響きへと変わっていくのを、私は頼もしく聞いていました。

特にこの一年、忘れられない「音」があります。それは、冬の夕暮れ時、皆さんが下校した後の3年生の教室から感じた「音のない熱気」です。誰もいないはずの教室に残る、黒板に書かれた数式や、使い込まれたチョークの粉、張り詰めた空気。それは、皆さんが自分の進路と真剣に向き合い、見えないところで懸命に努力していた証でした。その静寂な熱気を感じるたび、私は胸が熱くなり、「彼ら3年生なら大丈夫だ」と確信しました。

私の心に深く刻まれているのは、昨秋の文化発表会での皆さんの合唱です。ステージ上の張り詰めた空気の中、指揮者を見つめる全員の真剣な眼差し。最初の一音が響いた瞬間、会場の空気が一変するほどの迫力と、歌詞に込められた想いが、聴く者の魂を揺さぶりました。歌い終わった後、一瞬の静寂の後に訪れた万雷の拍手。あの時、君たちの心は間違いなく「一つ」に響き合っていました。そのひたむきな姿に、私は胸が熱くなり、腕から肩にかけて鳥肌がたったものです。

本校が掲げる学校経営目標の「立志」。この学校だよりのタイトルにもしていますが、それは、遠い未来の大きな夢を語ることだけではありません。仲間と共に一つの目標に向かい、時にぶつかり合い、励まし合いながら、懸命に「今」を生き抜く姿勢そのものです。あの合唱で見せた熱気、困難から逃げずに立ち向かう強さ、友を思いやる優しさ。それら全てが、皆さんがこの3年間で育んだ、かけがえのない「志」の結晶です。これから歩む道は、決して平坦なばかりではないでしょう。もし、壁にぶつかり、立ち止まることがあれば、いつでも母校を思い出してください。あの日の合唱のように、仲間と心を響き合わせた経験が、必ず君たちを支えてくれます。疲れたら、私がいつも言うように、少し「散歩」でもして空を見上げ、深呼吸をしてください。

高砂中学校は、いつでも君たちの「心の故郷（ふるさと）」です。さあ、胸を張り、自信を持って、自らの信じる道を力強く歩み出してください。皆さんの未来が、光り輝くものであることを心から祈っています。

まちがく未来高砂くらぶに穂塚会長がオンライン参加





2月19日（木）に高砂小学校で行われたまちがく未来高砂くらぶ（高砂中学校区学校運営協議会）に、高砂中学校生徒会を代表して、穂塚香琳会長がオンラインで参加をしました。毎回、この会議が19時スタートという事で対面での参加が難しいため、今回はオンラインによる双方向のビデオ通話で参加。今年度の2回目の会で、3年生の伊勢田会長がビデオメッセージでの参加に続いて2度目の参加となりました。あいさつの後、各委員からの質問に受け答えができたり、激励に対するお礼を述べたりと、とても有意義な時間となりました。委員の皆様からは、高砂中学校の生徒の姿にはいつも元気をもらっているなどと、温かいお言葉をいただくことができ、穂塚会長も、自分たちがそう思われていることに自信と誇りを感じますと答えていました。こうした、生徒の意見が地域の方々に直接届く場をこれからも大切にしていきたいです。

保護者の皆様へ

■ 3年生保護者の皆様へ

お子様のご卒業、誠におめでとうございます。入学時から見違えるほど逞（たくま）しく成長されたお子様の晴れ姿に、皆様の感慨（かんがい）もひとしおのことと拝察（はいさつ）いたします。この3年間、多感な時期を迎（むか）えたお子様を温かく見守り、学校の教育活動にも多大なるご理解とご協力を賜りましたことに、心より感謝申しあげます。お子様の輝かしい未来を、教職員一同、心から応援しております。

■ 学校評価について

昨年12月に実施した学校評価について、その結果についてお知らせします。

令和6年度から7年度にかけて、多くの項目で評価が向上しており（自己評価 B から A への移行が多数）、学校全体の教育活動が着実に前進していることがわかりました。

（1）「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善の進展

令和 6 年度は知識・技能の定着や思考力等の育成に課題が見られましたが、令和 7 年度は校内研修の充実により、生徒が主体的に考える授業実践が増加し、学力向上に結びついています。

（2） ICT 機器の有効活用による教育効果の向上

令和 6 年度の課題であった効果的な活用方法の研究が進み、令和7年度では授業での日常的活用が定着し、生徒の興味・関心や理解度の向上に寄与。Qubnea の定着も寄与（きよ）していると考えられます。

（3） 特別支援教育及び教育相談体制の充実

個別の教育支援計画に基づくきめ細かな指導、別室登校や支援員による不登校生徒への居場所（いばしょ）づくりと学習支援、「心の健康調査」等アンケートを活用した“いじめ”の早期発見・対応体制が確立されており、これらは両年度を通じて高く評価できます。

（4） 生徒の主体性と地域貢献意識の高揚

生徒会を中心とした主体的な活動が継続されており、特に地域ボランティアへの積極的な参加は、生徒の自己有用感を高め、地域からの信頼獲得に繋（つな）がっています。

その一方、継続する課題も浮き彫りになりました。

（1） 家庭学習の習慣化の不足

基本的生活習慣は定着していますが、家庭学習の時間確保や質の向上には依然として課題が残ります。「宿題をこなす」段階から、「自ら課題を見つけ学ぶ」段階への移行が不十分です。

(2) 不登校生徒への多様な学習機会の保障と社会性育成

支援体制は整備されつつありますが、登校復帰に向けた支援や、将来的な社会的自立を見据えた、より個別最適化された支援の継続が必要です。

(3) 部活動の地域移行への対応

令和9年度から段階的な移行が始まることになっていますが、指導者の確保、活動場所、費用負担など、持続可能な体制構築に向けた課題が顕在化（けんざいか）しており、円滑な移行が求められます。

この他、詳細な結果は、近日中に本校ホームページに掲載予定です。